

2022. 3.2	九州国際学生支援協会令和3年度第2回シンポジウム「コロナ禍における留学生支援の連携《実践例》」	主催：九州国際学生支援協会 共催：九州大学松永研究室
2022.3.26-27	第17回 在住外国人によるパネルディスカッション「集まれ！九州で働きたい留学生」	後援：JICA、久留米市、(公財)久留米観光コンベンション国際交流協会、福岡県行政書士会くろめ支部、九州国際学生支援協会
2022.3.	第2回理事会	※Covid19 感染拡大防止のため書面会議にて実施

事業報告(1)

【主催事業】令和3年度九州国際学生支援協会シンポジウム【座談会】 「日本や母国で活躍する元留学生に聞く：今、あなたの物語」

日時：2021年6月25日(金) 13:00-15:00 オンライン開催

主催：九州国際学生支援協会 共催：九州大学松永研究室

【プログラム】

- 趣旨説明 松永典子 九州大学大学院比較社会文化研究院 教授/九州国際学生支援協会 副会長・事務局
基調講演Ⅰ 謝佩津(しゃ はいしん)氏 一般社団法人 地域企業連合会 九州連携機構 台湾出身
基調講演Ⅱ Dinusha Rambukpitiya(ディヌーシャ ランプクピティア)氏 久留米大学 スリランカ出身
基調講演Ⅲ Herpin Dwijayanti(ヘルピン ドウイジャンティ)氏 Hikari Bridge インドネシア出身
モデレーター 趙一嶸(ちょう いちえい)氏 九州大学基幹教育院
閉会の辞 柳基憲事務局長 Global Connect Kyushu (株) 取締役

本企画は九州大学を修了した元留学生が先輩の元留学生たちに先輩たちのキャリア形成とそれぞれの就職後のライフストーリーを聞いてみたいという思いから企画されました。本企画は、元留学生による元留学生たちと参加者を交えた座談会です。外国人就労者の日本への「定着」が取り沙汰される今、「定着」ということばとはちょっと違った角度からそれぞれの物語を聴く機会をもちました。彼女たちはなぜ、日本で就職し、日本に長く生活しているのか、日本ではなく、なぜ母国で起業したのか、今の仕事のやりがいや困難な点は何なのか、今後の夢や展望についてなど、普段は聞けないそれぞれの物語からは、日本社会の今の姿が垣間見えてくるはずです。

令和3年度・九州国際学生支援協会シンポジウム【座談会】

日本や母国で活躍する
元留学生に聞く：今、あなたの物語

2021年6月25日(金) 16:00-17:30
オンライン (Zoom) 開催 (参加費無料) !

一プログラム

趣旨説明 松永典子氏
九州国際学生支援協会 副会長・事務局
九州大学大学院比較社会文化研究院教授

基調講演Ⅰ 謝佩津(しゃ はいしん)氏
一般社団法人 地域企業連合会
九州連携機構
台湾出身

基調講演Ⅱ Dinusha Rambukpitiya
(ディヌーシャ ランプクピティア)氏
久留米大学
スリランカ出身

基調講演Ⅲ Herpin Dwijayanti
(ヘルピン ドウイジャンティ)氏
Hikari Bridge
インドネシア出身

モデレーター 趙一嶸(ちょう いちえい)氏
九州大学基幹教育院
中国出身

主催：九州国際学生支援協会 共催：九州大学松永研究室
参加申込：6月22日(火)までに、「所属」「名前」「連絡先」を
右記のメール宛、送付してください。 E-mail：kyuissa@gmail.com



講演者①謝 佩津さん

台湾出身の謝 佩津(しゃ はいしん)と申します。2008年比較社会文化学府日本語教育専攻修士課程を修了し、現在は一般社団法人地域企業連合会連携機構の参事・企画室長として勤めています。

まず、弊機構概要と私の仕事をご紹介します。公益性を大事し、地域・国(日本)のために様々な企画を立て、活動して参りました。テーマは様々ですが、ミッション性は「地域づくり・国づくり」と一貫しています。

例えば、「環境」では2019年に環境省主催「九州地域循環共生圏シンポジウム」を運営した他、現在は北九州市主催の「海のお掃除プラントロボット夢コンテスト」を立上げています。他に、国際交流基金(The Japan Foundation)主催の日韓フォーラム in 九州を主管として運営、日韓間の経済、地域交流、メディア、世論などについて両国産官学リーダーが参加されました。他に、東京で毎年、国の課題と世界の課題をテーマに日本政府の行政関係者による卓話、若者(学生代表、若手経営者等)とのディスカッションを開催しています。次に「文化」では、映像関連企画として「アジアドラマカンファレンス」、「ショートショートフィルムフェスティバル in 福岡」、「マークエステル日本神話古事記」の主管を行っております。東京国際映画祭の関連企画 Japan Content Showcaseにも九州 PR ブース、食、舞台の演出と出展をしました。最後に、国際インターンシップでは、香港3大学、韓国1大学の学生インターンシップを受入れ、研修もしております。

このように、「環境」、「文化」、「教育」、「国際」などテーマは様々ですが、弊機構 AIE の活動を一言で言いますと、「公益性を優先した地域づくり」を行っている経済団体です。

▼▼当日話出来ませんでした。趙モデレーターからの質問に対する答えを用意していました。

Q.なぜ、日本で就職したのですか。

A. 母国を離れて海外で仕事、生活がしたいからです。私の出身は東アジアにある小さな島国、台湾、まだ国際社会の一員として認められていないため、国際会議、競技、コンサートの開催も難しく、資源と情報も得にくい。

Q.今の仕事のやりがいや困難な点は何ですか。

A.①言葉の壁：日本人ネイティブと同じレベルにはいかない。(苦手な部分：特に言い回し、曖昧、真意が分からない表現に戸惑う)

②外国人/女性である立場ゆえのやり辛さ、孤独さ：先入観を持って接してくる日本人が多い。

Q.今後の夢や展望について教えてください。

A.母国に貢献できるよう、今の仕事と立場を活かしていきたい。

講演者②ディヌーシャ・ランブクピティヤさん

モデレーターからの3つの質問のうち、「①なぜ、日本で就職したのか?②今の仕事のやりがいや困難な点は何か?③今後の夢や展望について教えてください」について説明させていただきます。ただし、この3つの質問に対して答える際には、まずなぜスリランカ人の私が日本語・日本に興味を持ったのかのきっかけをお話ししないとこの3つの質問に対して答えしても話がつながらないと思ったので、そこからお話を始めたいと思っております。

ですので、まずは私が日本語・日本に興味を持ったきっかけについてですが、少しお話にメリハリを付けたいと思って、最初にビデオを少しだけ皆さま方に見ていただきたいと思っております。このビデオですが、私の記憶が正しければ1991年に撮影されて1992年にNHKのドキュメンタリー番組として放送されたものですので、見ていただきたいですが、この中には登場人物として主な方が二人出て来るんですが、私ではなくて、その二人から私の物語を描いていただけたらと思っております。私とまったく同じストーリーですので、私だと思って見ていただいて問題はありません。そして、少しだけ私も出てくる場面がありますので、皆さま方は私を見つけられるかどうか楽しみです。少しビデオの画面を変えますので、少々お待ちください。いきなりNHKのCMから始まるかもしれませんが、CMのところを無視されてください。(ビデオ(NHK、CPI・スリランカ日本教育文化センター「里子・里親制度」))

ビデオはいかがでしたでしょうか、私を見つけられましたでしょうか。これが、私が日本語を勉強し始めたきっかけですが、日本とスリランカの間、スリランカにある文化センターだと日本のCPIというNPO法人がありまして、その里子・里親制度の里子になったおかげで日本語を勉強し始めた私が、今ここまで歩いて来ているとい

うことです。

では、次のスライドで私が日本に就職したきっかけについてお話したいのですが、日本に来日する時も私がスリランカの日本語教育を担っていくんだ、スリランカの日本語教育を支えていくんだという強い決意で日本にきましたが、九州大学の博士号を取得して博士課程を修了すると同時に、少し最初の事情がいろいろ変わってまして、それでもスリランカに帰りたと思って、向こうの大学の面接も受けましたが、ちょっと私の望み通りにならなかったの、すごく悲しかったのですが、それでもスリランカに戻りたい、国の日本語教育を支えたいという強い決意はあったので帰ろうと思ったのですが、いろんな方々のアドバイスをいただいて、そこで私が自分はいったいどうしたいのか、どこでどういう仕事をしたいのかということを変更して考えてみました。当時私が大学院を修了して九州大学で国際コースのスタッフとして働いていましたので、私が今やっているこの仕事にやりがいがあるかないのか、嫌いなのか、大変なのかということを見ると、そうではなくてやっている仕事は大好きです。そして、今の家庭では何か問題があるのかということを考えてみたら、日本では問題ないですが、一旦国に戻ったら子供たちは向こうの教育に付いていけるのかということところが非常に不安だったし、子供たちも向こうの学校には行きたくないという意見でした。そして、もし向こうに戻った場合の国の環境とか私の環境はどうなるのかということ考えた場合、これは発展途上国のスリランカは今でも問題ではあるんですが、何かをやろうとしたら、言い方は非常に悪いかもしいれませんが、政治家の後ろを走って行かないと、下でいろいろやり取りをしないと上手くいかないというのがある、私はそういうのが非常に嫌いな人間ですので、今日本にいながら日本で働いたら、もちろん日本にも恩返しできますし、母国のことも何か考えられますし、日本と母国のスリランカだけではなくて、このまま日本に残ったら、世界のためにも何かできるのではないかと、日本に残って働くことをいろいろ個人的な理由があって決めたわけです。

ここで、もう少しなぜ日本に残ったのかということをお聞きしたいのですが、私自身が二年前にもう一度テレビ番組に出てまして、テレビ番組とか見せるのは自慢話してはないですが、少しここで私が日本に残ったわけ、何で私が日本に住むのかという理由を語っているビデオですので、見ていただきたいと思います。（NHK番組「ワタシが日本に住む理由」）やはり長年、日本でお世話になっているので、日本に恩返しをしたいということもありまして、日本に住んでおります。

次のスライドは、仕事のやりがいや困難な点についてですが、私は今留学生と日本人学生の両方を担当していますが、その中でも一番多いのは留学生です。本当に毎日見ている留学生ですが、いつも学生がとてもかわいいと思っています。そして、職場の環境ですが、とてもやさしくて、協力的で、素晴らしい先生方に見守られて仕事をしています。そして、すごく多様な環境で、その環境がとても楽しいと思っております。私が外国語教育研究所にいるからかもしれませんが、イギリス人、カナダ人、アメリカ人、韓国人、中国人などのいろんな国の先生方がいらっしやいまして、いろんな考え方がありまして、日々学ばせていただいております。また、教育にも研究にも非常に自由をいただいておりますので、私の今の環境がどうかというと本当に楽しくて楽しくてたまりません。そして、今の私の仕事のすべてが大好きです。やりがいしか感じていません。少し困難があることを申し上げるのであれば、少し学習意欲にかけている、学ぶ意欲がない留学生がいるので、この学生の学習意欲をどうすればもう少し高められるのかが私の課題です。そして、大学の国際化にも貢献して促進させたいということをお聞きしております。

今後の夢と展望ですが、教育面では私の専門でもある日本語教育、異文化理解、多文化共生の授業をただ単に留学生だけを相手にするのではなく、留学生と日本人学生を含めた形でさらにやっていきたいということが夢です。そして、研究の面では、既にやっている研究もありますが、新たなテーマと研究費を見つけて、その研究結果は結果だけで終わるのではなく、スリランカ社会、日本社会、全世界に繋げて行くような形で研究を進めていきたいと思っております。個人面では、これから昇任を目指していきたいと思っておりますし、家庭では自分の子供たちは外国人児童としていろんな問題も直面している状況ではありますが、子供たちを立派に育てて、できれば母国にいる親の面倒をみるのが私の今後の課題でも、夢でもあります。できれば、スリランカのためにも何かしていきたいと思っております。大学では協定校の締結を結んだりというような活動もしておりますが、それだけではまだ納得できないので、もう少し大きく貢献できるような何かを見つけてスリランカにも協力して、貢献して行きたいと思っておりますが、まだ何かが見つかっていないという状況です。以上、早口になりましたが、ご清聴ありがとうございました。

講演者③ヘルピン・ドワイジャヤンティさん

今回の講演では、私の物語についてお話したいと思います。とても単純な内容ですが、日本ではなくて、インドネシアに帰って仕事をすることです。

まずは、私の留学経験は、2003年から2004年にかけて、AFS交換留学生プログラムに参加するために東京に1年間住んでいました。こちらの写真では日本人のホームステイのお母さんとお姉さんです。こちらは、私が日本の高校に通った写真です。こちらは、学生たちと一緒に楽しくスキーツアーした写真です。若いうちに日本で良い経験をする事ができたので、それは本当に素晴らしい経験だと思いました。日本語は全く知らないまま、日本に来てから、ホームステイの自宅で日本語をはじめ勉強しました。ですので、AFS交換留学生プログラムは人生の学びみたいな感じです。最初から赤ちゃんみたいな感じで、なにも日本語もわからなくて、「おはようございます」とか「ひらがな」ぐらいしかわからなかったです。でも、どんどん友達を作って、ホームステイの方々のみんながとてもやさしくて、本当に助かりました。そして1年間後、またインドネシアに戻りました。こちらの写真は、ほかの国からのお友達がたくさんいて、マレーシアの方とか、ブラジル、スイス、アメリカなどの方がいました。AFSの経験は本当に文化の学びでした、本当に素晴らしい経験でした。

また、インドネシアに戻ってから、本当に夢というか、大学生の時に、大学院修士課程では、また再来日したいと思ひまして、2009年ごろ文部科学省の奨学金のテストを受けて、2010年に日本へ行きました。私の学士課程は産業工学という専門でしたので、マネジメントも勉強したいと思ひながら、工学の勉強をしていました。また、起業家精神が好きですので、MBAプログラムを取りたい、MBAプログラムに入りたいと思ひていました。そして、大きな感謝をしたいのは九州大学のMBAプログラムに入ることができたことです。本当に素晴らしい先生に指導して頂きました。星野先生、本当に素晴らしい指導でした。

再来日した最初は、新婚でしたので2010年の時は子供がいなかったのですが、2012年に論文を書いている時に子供を産みました。その時は、大変でしたが、どうしても修了しないとけないと思ひまして、頑張つて修了しました。日本に来たのは、私だけではなくて、主人も含めてファミリーの成功だと思ひます。最初は主人も日本に留学するとは思わなかったのですが、最終的には修士課程も、博士課程も修めることができました。2017年には主人が博士号を取ることができました。

2017年10月ごろにインドネシアに戻りました。現在は、インドネシアの西ジャワの都市バンドンに住んでいます。バンドンは多分聞いたことがあるかもしれないし、まだ聞いたことがない方もいらっしゃると思ひますが、ジャワ都の中で一番大きい町で、山もありますし、いろいろなきれいなところがあります。GEDUNG SATEというのは、バンドンの政府のビルで、バンドンの真ん中にあります。また、3人の子供の母親として、そして起業家としての活動を楽しんでいます。

そして、インドネシアでのビジネスチャンスですが、日本から見るとインドネシアはとても魅力的な国だと思ひます。なぜかという、インドネシアは世界で4番目に人口が多い国です。2050年には、ご覧の通り313,020,847人になるそうです。インドネシアは開発されている市場の中から、インドネシアの社会は新しいことにチャレンジするのが好きですので、面白い製品とか、ブランドとかがあつてすぐ取り入れたいと思ふ社会です。とても簡単にビジネスチャンスをもたらえます。起業家の活動はとても面白いと思ひますが、総人口に対する起業家数の比率はまだ少ないです、1.6ぐらいです。アメリカより、シンガポールより、マレーシアより少ないです。インドネシアは人口が多いですが、起業家の数はまだ少ないです。私が日本に留学したのは、日本にも貢献したいし、インドネシアにも貢献できるようなことをしたいと思ひまして、新しいお仕事のチャンスを作れたらいいと思ひました。インドネシアでは経済のギャップが大きく、貧しい人がまだ多くいますので、一人ひとりにお仕事のチャンスがあれば嬉しいと思ひております。

私の場合、2006年大学時代にHIKARI語学センターを設立し事業を営んできました。2016年にHIKARI BRIDGEという会社に改名し、事業を拡大してきました。現在は語学教育だけではなく、日本へ留学を希望する人々対象の教育コンサルタント（無料相談）や小さな子供から大人までを対象に、日本語と英語のオンラインクラスを提供しています。2020年は苦しい時期でしたが、私がここまで来て信じているのは「難しいことの中には簡単なこともある」という考え方で、パンデミックの時期でも400人もの生徒が来てくれました。それは本当にありがたいことです。

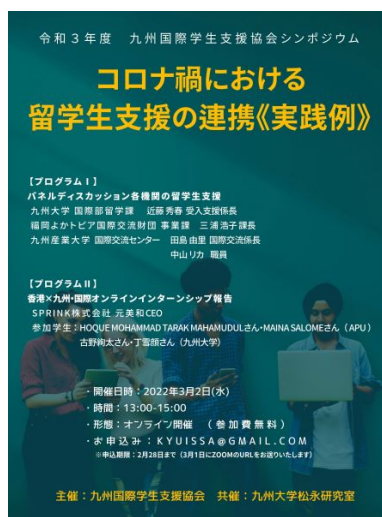
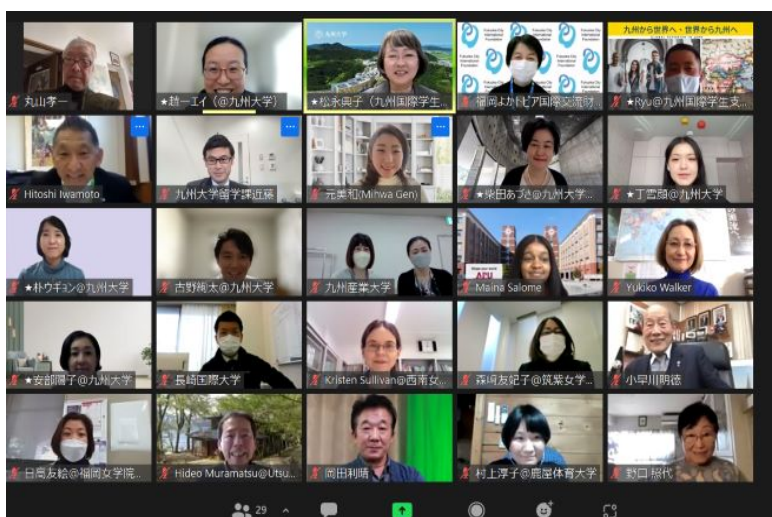
こちらはポスターの例ですが、英語と日本語を学ぶコースです。この Holiday Short Course は生徒たちが学校の休日の間に学ぶコースです。日本語にも興味をかなり持っていますし、英語も同じです。

日本での留学の成果についてですが、知識だけではなく、日本社会の文化も学びました。特に高校の AFS のプログラムに参加した時には日本社会の文化を内から学びました。日本の教育も内からみえました。また、母国を外からみえました。ドラマで見たよりもっと日本のことが素晴らしいと思いました。母国のインドネシアも外からみるといろいろな面白いことや、素晴らしいことがたくさんありました。このような視点を持つことができたのは、日本のおかげだと思います。本当に日本に感謝しています。ですので、留学経験で得たことは、現在、私の大きな力になっています。本当にどうもありがとうございます。ご清聴ありがとうございました。

- ・本講演には様々に反響をいただき、Youtu.be にて好評配信中です。 (https://youtu.be/byYLu_NvCus)
 - ・質疑応答 (省略) に関しては、小さな国際交流会「つなぐて」No.38pp.4-5 に掲載していただきました。 (<https://drive.google.com/file/d/1A5F9h5CEXGaMYMZMnk4xaid88X4heWlD/view?usp=sharing>)
- 記録：李娜・秋山咲希子（九州大学大学院地球社会統合科学府）

📁 事業報告(2) 📁

【主催事業】 九州国際学生支援協会令和3年度第2回シンポジウム 「コロナ禍における留学生支援の連携《実践例》」



【プログラムⅠ】 パネルディスカッション：各機関の留学生支援

【報告Ⅰ】九州大学国際部留学課 受入支援係長・近藤秀春氏

- 1) 世界に広がる国際交流・学術交流
- 「指定国立大学法人」として指定：2021年11月22日付で文部科学大臣より「指定国立大学法人」に指定 <2030年における成果指標>
 - ・留学生の受入人数⇒3,200人(約17%)に増加
 - ・外国人等教員数⇒約1,500人に増加(現在約1,000人)
 - 九州大学における留学生数
 - 2020年11月1日現在：留学生総数2,302人(全学生総数18,805人の12.2%)
 - 2021年11月1日現在：留学生総数2,424人(全学生総数18,956人の12.8%)

2) 新型コロナウイルス感染症による影響

■水際対策措置による入国停止の留学生への影響

- 600名を超える留学生が未だ渡日できていない。(令和2年度の入学者も数十名含まれる。)
- 実習や実技、演習等にはオンラインではなく対面での実施が必要な部分があるため、研究指導等が滞っている学生も少なくない。
- 日本へ留学し勉強したいと熱意を持った学生達の勉学に対するモチベーションが下がっている可能性がある。
- 渡日した場合についても、水際対策に伴い発生する本人負担額(空港から宿泊施設までのハイヤー代、所定待機期間中の宿泊代等)が大きい。
- 日本への留学希望者が今後減少する恐れがある。

3) コロナ禍における留学生支援 ***赤字は質疑応答で取り上げられた項目**

■コロナ禍における留学生支援策1 (経済支援)

- (1) 渡日直後の隔離期間中におけるホテル滞在費支援1人あたり5万円を補助/R2後期入学175名 R3春入学24名
- (2) 緊急授業料免除授業料全額免除者数/R3前期344名 R3後期353名
- (3) 緊急留学生支援1人あたり10万円を学業継続給付金として給付 R2年度115名 R3年度76名(授業料全額免除者または元国費留学生で長期履修制度利用者)

【参考】<国の支援>学びの継続「学生支援緊急給付金」1人あたり10万円を給付 R3年度1次推薦者163名+1次推薦保留者362名(計525名) 2次推薦枠102名

■コロナ禍における留学生支援策2 (メンタルヘルス支援)

○WEB相談受付フォームによる運用開始(2020.6~) 緊急事態宣言を受けて、自宅からWEBで相談受付ができるよう環境を整備。フォーム送信後、コーディネート室スタッフが、医師やカウンセラー、障害者支援スタッフなど適切な窓口へ繋いでメール等で相談を受け付ける。

■コロナ禍における留学生支援策3 (学生生活用「Q-Mate」)

Q-Mateとは・・・留学課で学生を直接短期雇用し、SNSやオンラインを活用しながら学生目線で留学生支援を行う。現在、30名程度を雇用(留学生10名、日本人学生20名)

- ①新規渡日留学生に対するオンラインサポート(渡日直後の不安感解消) Q-Mateが福岡空港から寮までのアクセス動画をYouTube配信
 - ②在学留学生に対してInstagram Liveを実施(在宅時の孤独感解消)
R3計10回実施(七夕紹介、かるた、早口言葉遊びなど)/参加者数延べ540名
 - ③在学留学生からの日常生活相談をオンラインで対応中(事前予約制)
 - (2022.3~試行)部局の学生窓口にipadを設置し、Skypeを用いて、Q-Mateがリモート対応
 - ④本学からの応援メッセージYouTube配信
 - 2021年12月未渡日の留学生約650名に限定公開(Video Message From Kyushu University)
- *現在、3月1日以降の受入再開に伴い、800名の留学生が速やかに入国できるよう手続き中。

【報告Ⅱ】福岡よかトピア国際交流財団事業課 課長・三浦浩子氏

1) 福岡よかトピア国際交流財団の趣旨

福岡市の国際交流拠点として、外国人も日本人も安心して暮らせる多文化共生社会の実現を目指す

2) (公財) 福岡よかトピア国際交流財団とは?

- ◆設立経緯: 1989年に開催されたアジア太平洋博覧会「福岡'89(愛称よかトピア)」を記念して設立された、福岡市の国際交流を促進し、多文化共生社会の実現に寄与することを目指した組織
- ◆事業運営体制: 総勢19名(うち英語スタッフ7名、中国語・韓国語スタッフ各1名)で運営
- ◆拠点: 福岡市博多区 福岡市国際会館

3) 当財団の事業3つの柱

I 国際交流・相互理解の促進 II 外国人住民の生活支援 III グローバル人材の育成と福岡定着支援"

4) I 国際交流や相互理解を促進する事業：6つの事業

(1) 地域での国際交流："同じ地域に住む住民同士が地域行事や交流イベント等で知り合い、助け合う関係づくりを支援"

(2) **ボランティアバンク活動**："ボランティア活動を希望する方に登録してもらい、通訳・翻訳等を通じて外国人を支援"：市民のボランティアの方が160名、うち外国人が40名

(3) ホームステイの仲介 (4) 留学生の外国語教室 (5) 日本語スピーチコンテスト (6) 国際交流活動助成

5) II 外国人住民の生活支援：6つの事業

(1) 相談支援センター (2) 災害時情報支援センター：多言語発信・多言語対応

(3) **チュータープログラム**：日本語や日本の生活に慣れていない外国人をボランティアがメールや電話等でサポート

(4) 様々な形の情報発信 (5) 日本語学習支援：日本語 Map (6) 「あったか福岡」の運営：福岡都市圏に暮らす外国人学生向けの日本語交流イベント等を開催

6) III グローバル人材の育成と福岡定着支援：留学生向け奨学金制度、就職・創業支援

留学生支援① **奨学金制度**：日本人学生向け奨学金制度概要：1つ、外国人学生向け奨学金制度概要：3つ

留学生支援② **交流+収入を得る場の提供**："留学生から学ぶ外国語教室"の講師、外国人学生が語る『ふるさとの街と福岡』のスピーカー、ボランティアバンクを通じた活動

留学生支援③ **福岡での就職・創業支援、「留学生のための就活・創業トークセッション」**：地場企業の経営者・人事担当者や、地場企業に就職した元留学生、福岡で起業した元留学生の話聞くトークセッションを開催

「留学生と企業との交流サロン」："地場企業の経営者・人事担当者等と個別に名刺交換をし、事業内容や採用時に重視している点、求められるスキル等、就職に役立つ情報を直接聞ける場を提供"

留学生支援④ **日本語学習支援**："日本語おしゃべり交流会"・日本語ボランティアと約1時間、日本語で様々なテーマで話をする機会・コロナ感染状況に応じて、オンラインまたは対面で実施・年に2回ほど、母国に戻った元留学生も母国から参加できる交流会を開催"、日本語教室の紹介"・福岡市内とその周辺に56カ所ある日本語教室の情報を冊子とホームページで紹介・日本語教室で教えるボランティアを養成する研修会も実施"

留学生支援⑤ その他：福岡市国際会館留学生宿舎での住居の提供、来福間もない留学生の歓迎交流会の開催

*"コロナ禍で不安や困難を抱える留学生には、相談対応や解決に結びつく情報の提供を中心に支援。

今後も変化するニーズに、柔軟に様々な取り組みで、対応していく"

【報告3】九州産業大学国際センター 国際交流係長 田島 由里氏・職員 中山 リカ氏

1) 新型コロナウイルス感染症への対処法

- ・配信用のガイドブック作成ガイドブック作成（配信用）、出入り口消毒・三密回避の徹底
- ・テイクアウト商品の購入費用補助、授業オンライン・対面 ハイブリット型
- ・緊急経済支援（総額5億円）、就職活動支援、学生制作「KMask」、感染予防啓発動画（動画視聴「本学における新型コロナウイルス感染症への対処法」）

2) 留学生支援

■**全留学生を対象とした状況調査**→380～390名ほどの留学生対象に所在確認、相談事項等

—2年前はアルバイトの勤務時間が減った、もしくはアルバイトの出勤が今停止状態で、収入面で困っている。その場合は国からの家族からの送金等で生活が維持できるようにしているなどの学生からの声があった。2年前に比べれば今は少し落ち着いた。

—特に1年生・2年生対象の本学全体のサポート支援策：日本語でたくさんのメールが学生のところに届くのだが、それが全部きちんと読み込めない、読み込むのが少し難しい学生も若干名いた。そういった学生は学費の納入等の相談なども、私共国際交流センターの方に尋ねてくることが多いため、教務課など各部署への繋ぎ役として私どもが他部署とうまく連携が取れるようにサポートしていた。

■一時帰国中の学生との連絡→教務課との連携

—2年前の最初の遠隔授業が一斉に始まったとき、国によってネット環境などの環境が違い、一日中ネットを繋ぐという状況で、国内にいる学生もちろん同じが、一時帰国中の学生も含め多くの学生から授業をどのように受けるかという相談があった。これは実際には教務課に繋いで、私共でうまく学生との連絡と、そういった不安を解消できるようにしている。

- ・授業料減免→WEB申請に切り替え：本学は紙ベースで今まで申請を承っていたが、徐々に徐々にコロナ中を機にいろんなことをWebに切り替えている
- ・**国別新入生と先輩留学生との懇談会**：本来は学部ごとに新入生と各学部の教員との質問交流の場を設けていたが、昨年からは、留学生の国別で、新入生と先輩留学生との懇談会という形に変えて交流してもらう場も設けた。少人数にグループを分けて行い、いわゆる自分の母語で、困ったこと、何でも聞けるというような機会を作るようにした。これは留学生にも大変スムーズで質問しやすく、1年生にとっては非常にいい機会となった。
- ・特定活動→延長申請希望者増：在留資格が当初だと1年という期限があったが、現時点ではこれまでは1年以上更なる延長の申請が可能になった。本学でも卒業生の特定活動をまたさらに1年を延長の申請を希望する学生が増えた。
→既卒者対象の情報を随時提供：これにより、キャリア支援センターが持っている留学生の既卒者対象の情報というの、私どもは国際交流センターで共有をして、それらを特定活動中、活動は延長している学生に対しても随時提供をしていた。

*今年コロナの状況がどのようになるかはまだわからないところがあるが、本学では基本的には日本国内にいる学生が入学してくる場合が多いので、新規入国の緩和に関しては大きな影響というのはない。次年度に向けてできるだけ学生の意見、本学にも留学生会があるので、留学生会でのコミュニケーションというのをより深く取りながら、また次年度に向けて留学生の国際交流センターとしての留学生支援というのも考えていきたい。

記録：趙イチエイ（九州大学基幹教育院）・朴ウギョン・丁雪顔（九州大学大学院地球社会統合科学府）

【質疑応答】

※（ ）内は発言者名、敬称略。チャットでの質疑応答は省略。

1. ボランティアバンクについて

- ・ボランティアの方たちが定期的に組織としてどのような活動をなさっているか、伺いたい（丸山）。
- ・残念ながら、やはりコロナの関係で、活動そのものは今あまりできていない。ボランティアには翻訳通訳、交流ボランティア、災害ボランティア、ホストファミリーなどのカテゴリーがある。まず、ボランティアとして気を付けて頂きたいこと、安全の問題、個人情報の取り扱いの問題、というような基本的なことを学んで頂く研修を設けている。翻訳・通訳の方をターゲットにした、通訳、翻訳の人という立場の人が見つけておくべきマナー、基本的なスキルについての実践研修を、今年度オンラインで実施した。災害ボランティアの方には、福岡市と協力をして、福岡市の防災の基本的な体制について学んで頂く研修、ボランティア相互のオンライン交流会を実施した。もう少し自主的な、例えば、災害ボランティアの避難所支援チームっていうものを、それぞれボランティアが自主的に立ち上げて勉強会をやるっていうようなところまで行き着けられたら良い（三浦）。
- ・ボランティアの組織化：ボランティア間の交流、横のつながり、それを束ねるような組織化ということが永続性ということを考えると、とても大事。今、コロナで大変だが、これを乗り越えて、来年に向けてさらに継続化するように、そして、ボランティアの後継者を作ることも大切。大変だと思うが、応援している（丸山）。
- ・人材バンクというのは、これから、留学生も含めて、いろいろな人材を結集して、それをあらゆるところに活用していくということを考えた場合、市民にとって非常に重要な組織になる（松永）。

2. 各機関の実践、それぞれの知見をどう連携させていったらよいのか

- ・本学では **Q-MATE** によるリモートの生活相談を行っているが、大学としてのサービス提供に限界がある事項については、福岡県、福岡市、よかトピア交流財団の方に「つなぐ」ところまではする必要がある。その時に、ひとつの解決策として **ボランティアバンク** とか、よかトピア財団の仕組みを案内することによってご支援頂けるよう仕組みというか、「つなぎ」ができるとう良い（近藤）。
- ・例えば、先ほどの近藤様のお話では、恐らく **チュータープログラム** が「よかトピア」ではそれにヒットするサービスだろうと思う。こういう場があればこそ知って頂けたということなので、私どもとしては、さらに多く

方に、我々がどんなことをやっているのかということを知っていただくことが必要。大学は大学ってくりの中、精いっぱい学生さんの支援をされている、ただそこに手におえないものがあるとするならば、それを、誰か解決してくれる人がいるのか、そこを見つけるための「中間支援の位置づけ」として我々「よかトピア」を考えて頂いて、まず投げて頂く。そうすると、我々自身も直接解決できないとしても、そこからさらに「ここにつながったらいいですよ」ということをご案内できる可能性がある。そういう、お互いの手が及ばないところ、あるいは、そこまでできないというようなところを補い合うというような連携ができていけば、本当に切れ目なく留学生の方のご支援ができる（三浦）。

- ・大学が行っている取り組み、それから公的機関が行っている取り組みというものをそれぞれが理解しておくこと、そして、どこにどういう情報があって、どういう対応がお互いにできるのかということを経験共有できる状況、環境であるべき。そして、海外から来る留学生、既に日本にいる留学生に対しても、どこにどういう情報があるのか、どこに行けばすぐ対応してもらえるのか、窓口に来た段階で我々自身が本当に「繋ぎ役」としてサポートできるような状況を作っていかなければいけない。その情報というのを、きちんとフィードバックして、一旦どこかで整理してシェアしていく、つないでいくと、互いにやりやすくなるのではないかと（田島）。
- ・公的な機関と大学との、お互い、あい補い合う情報の共有と、それから連携というのが、今後ますますできていけば一番良い。また、今ウクライナでは戦争が起きているという、あの出来事一つとっても、留学交流の果たす役割、「平和」に対して貢献できる役割というもの、申しますまでもなく、大きいところがある。私たち、留学生に身近に接する者たち、それから、日本から海外に留学していく学生にとっても、そういったことを勉強してから留学交流、留学生支援を進めていければと思う（松永）。

記録：柴田 あづさ（九州大学留学生センター）

【プログラムⅡ】 共催事業報告

香港×九州・国際オンラインインターンシップ報告

SPRINK 株式会社 CEO 元美和氏

参加学生：Maina Salome さん（APU）・古野絢太さん・丁雪顔さん（九州大学）

令和3年度の国際インターンシップとして行った事業報告を、SPRING株式会社の元美和氏よりご報告いただいた。

最初に、このインターンシップが、コロナウイルスの感染拡大のため、日本と香港を繋いだ完全オンラインの形式で行われたことが報告された。初めての試みで大変な面もあったが、場所を問わず、学びの場を提供することに対するヒントを得ることができたと元氏は述べた。

次に、このインターンシップの運営体制が述べられた後、プログラムの概要が述べられた。このインターンシップの期間は約3か月であり、まず、学生たちが、事前研修として、約1か月の講義に参加し、九州や福岡についての情報や、日本の企業文化やビジネスマナーなどの知識といった多くの情報を得る機会を設けたことを報告した。その後、1か月半の間、多様な働く文化を体験するために、バーチャルインターンシップとして、福岡にあるスタートアップ企業4社に派遣され、インターネットでの交流ではあるが、実際に企業の仕事を体験したことを述べた。そして、次に、このインターンシップに参加した香港の嶺南大学の学生9名と、日本への留学生を含む九州に在住する学生9名の紹介が行われ、このインターンシップが、コロナウイルスの感染拡大によって減少していた国際交流の場の提供として貴重な機会となったことも述べた。

元氏は、このインターンシップの目的として3つの目的を述べた。まず、1つ目は、学生が言語や時差といった違いを乗り越えて、多文化、かつ国際的な環境の中で、仕事を行うスキルを学ぶことである。2つ目の目的は、今回7カ国からの参加という国際的な学生同士の交流を通して、異文化コミュニケーションの場を体験することである。そして、最後の目的として、学生が人的資源となり、実際の仕事を体験することで、ビジネスの成り立ちなどを学ぶアントレプレナーシップ教育としての一環となることといった目的である。このような3つの目的の下、最初の事前研修では、福岡と香港との歴史的関わりに関する講義や、日本のビジネス文化や文化交流などといった講義が展開されたことを述べ、さらに、福岡の会社と協力したケーススタディや、自分たちでビジネスプランを組み立て、プレゼンテーションを行うといった取り組みも行われたことを報告した。そして、その後は、4~5人のグループに

分かれ、実際に企業に派遣され、企業からの指示の下、提示された課題に取り組んだり、意見を提案することで、企業からのフィードバックをもらったりしたことを報告した。この学生との交流を通し、企業側から、学生からの意見を活用し、実際の業務に活かしたといったと報告があったことも述べた。

また、この報告の中では、実際にインターンシップに参加した学生3人（古野さん、丁さん、マイナさん）からの経験談も語られた。3人の学生は、簡単な自己紹介の後、それぞれ、このインターンシップに参加した経緯や、インターンシップ先で行ったことについての詳細について述べ、このインターンシップを通して、就職先を選択する際の視野が広がったことや、国際交流へのハードルが下がったこと、また、将来、起業するためのスキルが得られたことなどを述べた。

そして、最後にまとめとして、このインターンシップが初めてのオンラインでの開催であったため、準備面で大変な面もあったが、運営団体との連携を通して乗り越えたこと、また、九州側の学生をリクルートする土台がなかったことを問題点として報告した。しかし、このような国際インターンシップの今後の展望として、今回新たに取り組んだ、オンライン開催、ペアインターンシップ、スタートアップ企業での勤務といった3点のいずれも展望があったと述べ、具体的な内容として、今後、対面でインターンシップが開催できるようになっても、場所を問わず交流することができる機会として、ハイブリッド型のインターンシップの形が活用できることや、受け入れ企業を多様化することで、今後は、日本側の学生が、海外の企業でインターンシップを行うといった双方向の交流が促進されるようなインターンシップの展望が見えたことも報告した。そして、この今後は、この経験を活かし、国を超え、学生たちに進学や就職、起業といった多様な進路選択のきっかけやベースとなるような、国際インターンシップを提供していきたいと語った。

報告：安部陽子（九州大学大学院地球社会統合科学府）

📁 事業報告(3) 📁

【元岡公民館との共催事業】 まちあるき in 伊都 & クイズ大会

松永典子（九州大学）

2021年11月21日（日）10:00-12:00。今年も5.5キロを走破しました。中国、韓国、ベトナム、インド、マレーシア、アフガニスタン出身の留学生も含め総勢13名が参加しました。元岡小学校運動場での開会式では、共催の元岡公民館の計らいにより、参加留学生の紹介を行わせていただきました。準備運動のあと、秋の田んぼ道を元岡校区の皆さんとともに楽しく歩きました。元岡公民館でのSDGSに関するクイズ大会には元岡校区の方も参加され、留学生の知識の広さに感嘆されていました。元岡公民館からのおにぎりや飲み物などの参加賞、本協会からのクイズの賞品に参加者も大喜びで、コロナ禍のひととき、人や地域とつながる活動となりました。



- まちあるき：行程：5.5km
- 元岡小学校運動場
- 桑原公民館で休憩📷
- 伊都キャンパスで記念撮影📷
- 元岡小で解散
- クイズ大会（於：元岡公民館）



<まちあるき & クイズ大会の様子>

外国人本音トークについて

柳基憲 (Global Connect Kyushu Co., Ltd.)

昨年 12 月 4 日土曜日の 13:00~およそ 1 時間半にわたり、「外国人育パパの本音トーク」と題して日本人と外国人からみたジェンダー支援についてのオンラインイベントを実施致しました。本来なら会場に集まりライブで行いたかったのですが、新型コロナの状況も踏まえてオンラインでの開催と致しました。

外国人の本音トークは従来会員制で行っていましたが、今回は初めて一般公開で視聴者を募り開催いたしました。内容と致しましては、メインとなる外国人父親パネリスト 4 名（アメリカ、韓国、バングラディッシュ、ブルガリア 4 か国）と一般視聴者 17 名にて行い、日本で育児を行っている外国人パネリストが日本の育児について母国との違いや日本の育児で困った点、良かった点などを本音で語り合い、主に日本の視聴者が聞いて感想をのべるという形で進み、日本における育児に対するジェンダーギャップの意見や、母国での育児についてなど有意義な意見交換が行われました。

視聴者も現在我が国でおきている育児に関するジェンダーギャップに関して改めて問題点や外国との違いが理解することが出来て、質疑応答では視聴者からも多くの意見や質問なども飛び出しました。今回のイベントで工夫した点は一般公開としたことで日本人の視聴者にも討論の内容を分かりやすくする為、「日本語」にて行いました。パネリストたちも日本語が流暢で、分かりやすい討論会となりました。

また視聴者との意見交換の時間を多く設けたことで、多様な国の方と日本人とのジェンダーに関する違いや考え方などを周知できたことは良かったです。

今後はまたこのような外国人からみた我が国（福岡）に関するジェンダーギャップ、支援についてのイベントを増やしていき、公開してまいりたいと思っております。なお、今回のイベントは参加者ご理解の上、編集して YouTube でも配信致しております。良ければご覧ください。

パネルディスカッション
あすばる男女共同参画フォーラム2021

5 GENDER EQUALITY

25周年

日本人と外国人からみたジェンダーの支援

- 外国人育パパの本音トーク -

女性の社会活動によりジェンダーによる役割分担が変わって今、育メンのパパたちが思うジェンダー支援について多文化共生の観点から考えてみます。皆様のご参加をお待ちしております。・BY GLOBAL REPORTERS

Speaker 1
Ryu K.H.
韓国出身
Global Connect Kyushu(株)
取締役

Speaker 3
Akharuzzaman M.
バングラディッシュ出身
日本アジアグループ(株)
マネージャー

Speaker 2
Bruce R.H.
アメリカ出身
Open Mind(株)
取締役

Speaker 4
Stefan G.
ブルガリア出身
(株)グローバルアリーナ
マネージャー

司会・コーディネーター
片野 明子
Global Reporter in Japan
春日支部 副会長

LIVE
令和3年12月4日(土)
13:00 - 14:30
ZOOMによるライブ配信!

【お申込み】
こちらのQRコード
を読み取りお申込
みください。
後日、URL・ID・パスコ
ードをお送りします。
※締め切り：12月3日

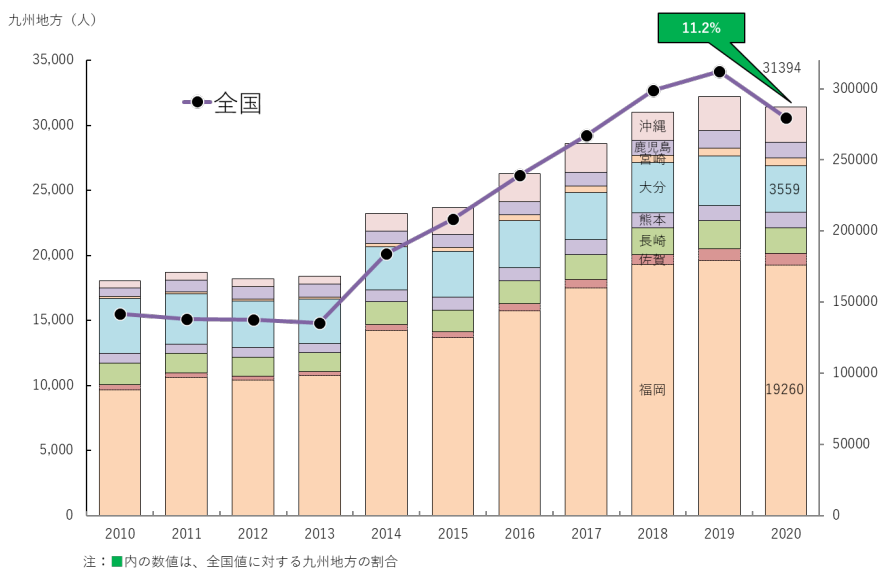
主催：Global Reporter in Japan 共催：福岡県男女共同参画センター「あすばる」
後援：九州国際学生支援協会

お問合せ E-mail: gck.desk@gmail.com Tel: 080-2785-5536 「参加費無料」

<写真 第 22 回外国人本音トークポスター>

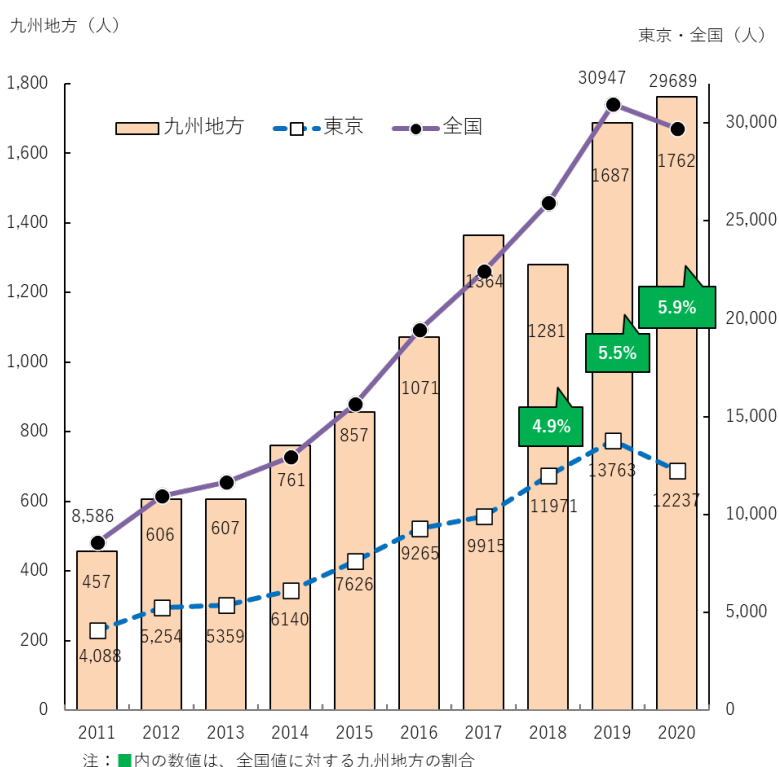
◆データで見る外国人材の就職関連情報【九州地方】

柳基憲 (Global Connect Kyushu Co., Ltd.)



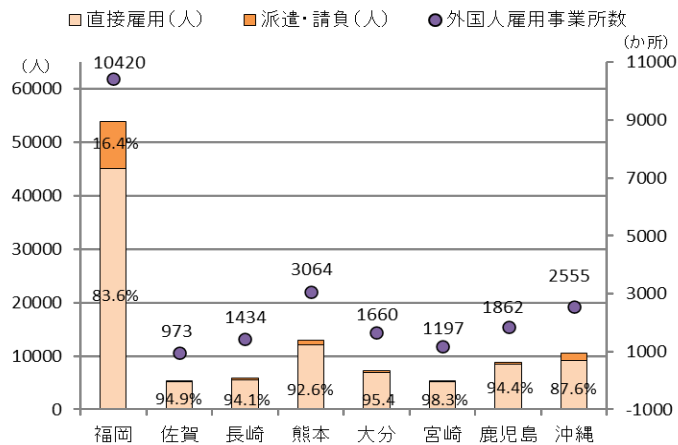
<図1 九州地方における外国人留学生数の推移> 出所：JASSO (2021) より著者作成

九州地方の外国人留学生数は2020年5月時点で31,394人と、その前年度の32,196人より減少傾向に転じています。この数は全国の外国人留学生279,597名の11.2%の規模です。県別では、福岡県(19,260人；前年度比369名減)、大分県(3,559名；前年度比278名減)、沖縄県(2,676名)、長崎県(1,959名；前年度比186名減)の順となっています。



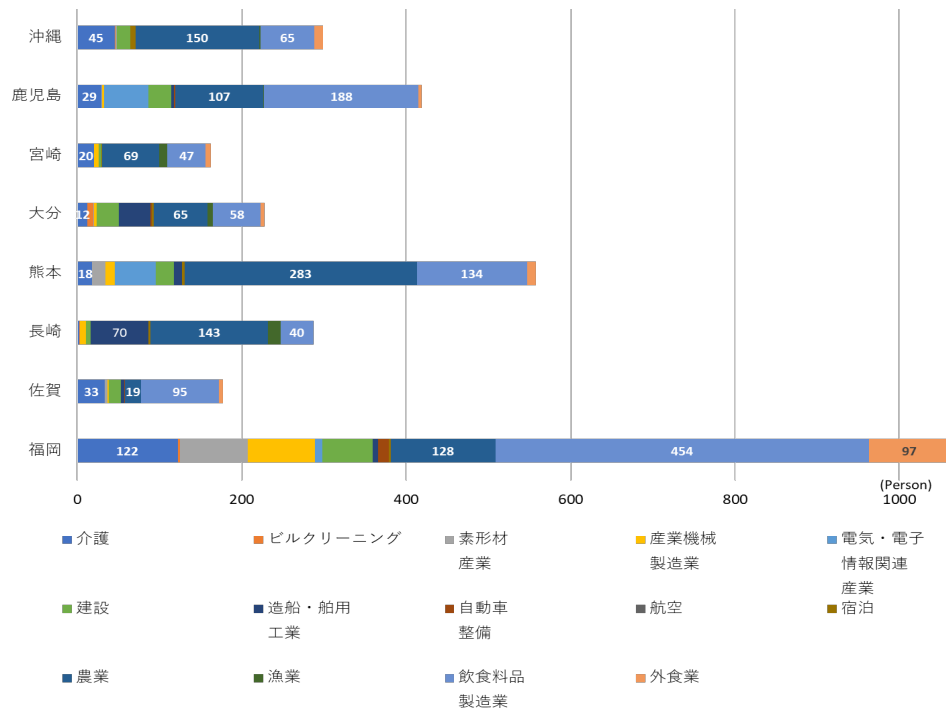
<図2 企業等への在留資格変更許可人員数の推移> 出所：法務省 (2021) より著者作成

図2は外国人留学生が九州地方に所在する企業等への就職を目的として行なった在留資格変更許可申請に対して処理した数を表示しています。2020年で見ると、日本国内の企業に就職した外国人留学生は29,689人で、その5.9%(1,762人)が九州内企業に就職していたことが分かります。



<図3 外国人雇用事業所数と外国人の雇用形態> 出所：厚生労働省（2021）より著者作成

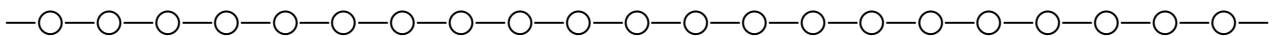
2021年の九州地方における外国人雇用事業所数と外国人労働者数は、23,165か所の110,061人です。福岡県（10,420か所、45,096人）、熊本県（3,064か所、12,056人）の順となっています。また、雇用形態では、8県の平均直接雇用率は92.6%で、宮崎県（98.3%）、大分県（95.4%）の順となっています。



<図4 特定産業分野別外国人労働者数（在留資格「特定技能」）>

出所：厚生労働省（2021）より著者作成

2021年の九州地方における特定産業分野（14業種）別外国人労働者数は、3,190人で、福岡県（1,060人）、熊本県（558人）、沖縄県（299）、長崎県（287人）の順となっています。県別で見ると、例えば、福岡県の場合、飲食料品製造業（454人）がもっとも多く、農業（128人）、介護（122人）、外食業（97人）などの順です。また、熊本県の場合、農業（283人）、飲食料品製造業（134人）などの順となっています。九州地方では、飲食料品製造業（1,081人、33.9%）、農業（964人、30.2%）、介護（281人、8.8%）、建設（178人、5.6%）などの順で構成されています。



◆他団体の取り組みの紹介

(1) 男女共同参画ネットワーク春日

わたしたち【男女共同参画ネットワーク春日】は、『ひとりひとりが自分らしく輝ける』社会づくりのために、春日市内で活動している団体や個人と協力し合い、行政とも連携しながら、年間を通じてさまざまな活動を行っています。具体的には、春日市長をお招きした定期総会をはじめ、視察研修（他団体と交流会）、講習会・公開講座（一般市民参加で年2回の学習会）、市議会議員との交流会（有意義な意見交換会）、あすばる大交流会（福岡県の仲間たちとの交流会）、あすばるフォーラム参加、（あすばるとは「福岡県男女共同参画センター」の名称）、避難所運営ゲーム HUG（外国人留学生と一緒に研修）、日本女性会議参加、広報紙「イクオリティ」の発行などがあります。なかでも近年、力を入れているのが「避難所運営ゲーム HUG」です。避難所に見立てた体育館や教室の平面図上に、避難者の様々な事情を書かれたカードを置いていき、どう対応していくかを模索体験するゲームです。多様な視点からの防災をという観点から、女性も責任者として災害時に臨む体制づくりや、在住外国人に対し必要な支援策などを地域の住民と一緒に考える場づくりを大事にしています。



【写真1】ネットワーク春日の学習会

(2) 私の故郷・福岡/FSFJA～多文化交流サイト～

福岡帰国留学生交流会が主宰する福岡を愛する人たちのための多文化交流のサイトです。福岡の留学生・元留学生と福岡におられる日本人であればどなたでも参加、投稿できます。ぜひ一度覗いてみてください。

<https://www.facebook.com/groups/2065286906979850>



【写真2】私の故郷・福岡/FSFJA～多文化交流サイト～

小早川明徳理事長・2021年度外務大臣表彰受賞

会員のみなさまには、既にご承知のところながら、国際協力機構（JICA）事業をはじめとする長年の国際交流の功績に対し、小早川理事長が今年度の外務大臣表彰を受賞されました！
まことにおめでとうございます。改めまして、本協会における多大なるご尽力にも感謝申し上げます。
今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【九州国際学生支援協会】

※2020年度より協会役員及び事務局が変わりました。

◇事務局 電話番号：092-802-5629 FAX 番号：092-802-5629

◇事務局 住所：〒819-0395 E-mail: kyuissa@gmail.com

福岡市西区元岡744 九州大学大学院比較社会文化研究院 松永研究室内

- ・理事長 小早川 明徳（一般社団法人 地域企業連合会 九州連携機構 会長）
- ・会長 横山 研治（立命館アジア太平洋大学 名誉教授・Dean, NUCB Business School）
- ・副会長 松永 典子（九州大学大学院比較社会文化研究院 教授）
- ・事務局長 柳 基憲（Global Connect Kyushu 株式会社 取締役）

・ホームページ: <https://sites.google.com/view/kyuissa/>

・facebook: <https://www.facebook.com/kyukokushien>